

甲子園ダーツ！

内藤 真理子

近所の国学院久我山高校が、選抜高校野球、西東京代表で甲子園に出ることになった。四日目の第一試合、甲子園は雨で、午後一時開始となる。

対戦相手は、有田工（佐賀）で、先攻のスタート。

国学院は後攻。昨年の十一月にはイチローのコーチを受けている。

「大丈夫！」と自分に言い聞かせてテレビ観戦を始めた。

一回、バッターボックスに有田工の選手が立った。ピッチャー成田君はがっちりとした体格でたくましい顔をしている。だが力強く投げるも、一番打者を塁に出してしまう。二番打者にはフライを高々と上げられキャチできず……。胸がドキドキして見ていられない。それでも一回表を無得点に抑えることが出来た。

その裏の攻撃。一番はフォアボールで一塁に、二番がヒットを打ち、一人が還り一点を先制。そうなると、ここで大量得点を取って置けば楽になるのにと、見ている方は欲が出るもそうはいかず……。一点のみ。

十年以上前にも、国学院久我山は夏の甲子園に出ている。当時は久我山の商店街は元気で、バスを出し、観戦者を募って大挙して甲子園まで行っていた。商店街にはスポーツ用品店、本屋、文房具店、それに出前をするようなすし屋、蕎麦屋、とんかつ屋、大きな花屋まであって、国学院久我山高校はお得意様だったのだろう。

だが、今ではそれらの個人商店は全部なくなってしまった。

今回の甲子園行きは、駅前のスーパーが音頭をとり、客に千羽鶴を募って贈ったそうだ。

その後、三回裏に相手のミスで一点追加。だが、相手も四回の表に一点を加える。国学院は六回、七回にも一点ずつ取り四対一に。

八回表、攻撃の前に「有田工は八回には何かが起こる！というジンクスがある。今まで八回に点を取っていた」とのアナウンス。見ている私はもう心臓が飛び出しそう。ジンクス通り、一点をこの回に追加した有田工だったがそこまで。

終わってみれば四対二で国学院久我山の勝利。でも終わったのはまだ一回戦だけ。

心臓がつかしらす？